大賞　森（もり）　惇（あつし）

ふたりの子供たちへ

　生まれた時から病床にいる父さんは、君たちにはどう映っているのだろう。
　どこにも君たちを連れて行ってあげられず、
「おかえり」というだけの存在だけど、
外から帰るたびに駆け寄ってきてくれて本当にありがとう。

　先の見えない長い闘病を続けていると、
父さんは時々、生きている意味がわからなくなってしまいます。

そうなってしまった時、いつもと違う父さんの気配を感じ取って、
「大丈夫だよ。きっと大丈夫」と言ってくれるユウちゃん。
父さんは、君の言葉に何度励まされただろう。

カンちゃんは、眠る時間になると、
「今日は何の夢を見る？みんなでどこに行こうか」と聞いてきてくれるね。
カンちゃんのおかげで、たくさんの場所に旅行できたよ。

父さんは、そんな君たちに毎日、毎日、救われています。
未来に尻込みする父さんも、
母さんと君たちが優しく寄り添ってくれるおかげで、何とか前へ進むことができています。

辛くて、苦しくて、思い通りにならないことはたくさんあります。
それでも、君たちのおかげで、「生きていて良かったなぁ」と、心から思います。

君たちに感謝を伝えても、
「いいよいいよ！」と言って遊びにいってしまうから、
こうして手紙に書いて、形に残しますね。大きくなったら、ふたりで読んでね。

我が家を明るく照らしてくれて、本当にありがとう。
これからも、家族４人でいっしょに歩んでいこうね。

父さんより

（ 千葉県／35歳／男性／無職《闘病中》）

病床を支えてくれる子供達への感謝を形にしたいと思って書きました。

社会福祉法人愛の友協会